

沖縄クライミング報告

【日程】2015年12月18日(金)~20日(日)

【登山方法】フリークライミング

【メンバー】平野直(CL、記)、上茂、平野良、国領(会員外)

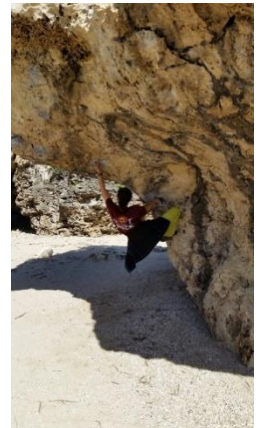
【行程】18日(快晴) 6:40 羽田発 - 9:30 那覇着 - 糸満観光 - 具志頭クライミング - 美ら海水族館 - ホテル
19日(快晴) 沖縄中部クライミング
20日(晴れ) 沖縄中北部クライミング - 20:50 那覇発 - 22:50 羽田着

【注意】沖縄には地元の方が信仰する聖地が各地に点在しています。また、本島は多くが第二次世界大戦の激戦地でした。クライミングエリアは基本的には地元の了解を得た場所で行っていますが、このような歴史的背景があるところでのクライミングを快く思わない方々もおられます。安易な情報公開は避けて、今回の報告書は一部地名をあげない事としました。興味のある方は直接平野までお問い合わせください。

【内容】寒い関東を離れてどこか暖かいところでクライミングしたいなー、と調べていたら冬の沖縄はシーズンオフ価格で激安パックツアーがある事、実はかの地では隠れたクライミングスポットが結構ありそうな事がわかった。

一日目：早朝千葉を出て、9時過ぎにはポカポカ的那覇に到着。さっそくレンタカーを借り出す。今回の宿泊地は本島中北部なので、初日は南部のエリアを見学に行く。まずは糸満市経由で具志頭村を目指す。ところがさすが沖縄、楽しそうなスポットがあり過ぎる。途中の産直店、物産館、沖縄フードに舌鼓を打っているうちにすでに昼になってしまった。

なんとか昼過ぎに具志頭エリア到着。サンゴ礁の海岸と、大海原を一望できる絶景の駐車場にはトイレも東屋もあり、「次回はここにテン泊できるね」と、貧乏山や根性丸出し。具志頭はボルダーが有名だが、一応リードルートもある。しかしあまり登られていないらしく支点の劣化が目立つためリードはパス、なんちゃってボルダー&散策を楽しんだ。このエリアは琉球石灰岩という岩質らしく、手の切れそうなガビガビの岩だ。実際、人気課題には乾いた血の跡があったりなどして、初心者はそれだけで敗退である。ここは波打ち際にあるため、下部は削られて抉れている岩が殆どだ。トポには3級から段クラスのムズい課題ばかり載っているのですが、我々はそれらは見学だけにして、自分達でオリジナルラインをみづくりした。



夕方から宿泊地周辺へ移動。途中、美ら海水族館によってマンタやジン



ベイザメ、鯛や熱帯魚の舞い踊りを楽しんで、夕食は沖縄居酒屋へ。三線にのせた島唄ライブを聞きながらオリオン生ビールで地元の山海の幸を堪能した。

二日目：ホテルの豪華バイキングでお腹を満たしたあと、一路クライミングエリアへ。取付きがわからずしばらく右往左往するが、運よく通りかかったシーカーサー畑に向かうオジイにお伺いすると、「クライミングならここから入ればいいサー」と親切に教えてくださった。さて、薄い踏み跡をたどると岩場が見えてくる。高さ 25m 程の、ところどころコルネの発達した堂々たる壁だ。快晴の土曜日なのに、辺りに人影はなく、結局終日エリア独占状態だった。関東の知った岩場なら喜ばしい状況だが、トポのない我々には困った状況。とりあえずいかにも簡単なようなラインを Kさんと私で登ってみる。「うーん、5.7かなあ」「それじゃこっちは 5.8 にしよう」と適当にグレーディング。結局そのエリアのラインを端からみんなで交互にオンサイトした。グレードは 5.7~10b と思ったが、後から確認したら 5.8~10C くらいらしい。



写真は U さんの華麗な 10c(?) オンサイトトライ

午後からは別のエリアに移動して、10a から 11 台(?) まで、ボルトのしっかりしていそうなルート達をさわる。11 は傾斜もムーヴもあって面白かった。沖縄は日本最西端なだけあって日が長い。疲れ切って夕方 4 時頃撤収したが、まだまだ明るい。帰りがけにもう一つのエリアを見学。ここは堂々たる洞窟を擁する、ものすごく威圧的な壁だった。去年行ったスペインの岩場や鳳来にも匹敵しそうなスケール。あまりのハンクでグレードが全然わからない。でもホールドは豊富で登りやすそう。こんな岩場が関東にあったら一大人気エリアになるねー、と一同嘆息。次回はここをメインに登ろう、と岩場を後にする。駐車場に 5 時半頃戻ったが、まだ日の入り前だった。



夕食は地元の寿司屋へ。魚が美味しい！種類を聞くが、全部沖縄名なので全然わからない。シャコ貝の刺身は絶品。K さんは島ラッキョをお気に召しておかわりしていた。

三日目：早くも最終日。まずは島最北端の辺戸岬を目指す。駐車場から海岸沿いにエリアを目指す。海辺なので風が強いが、太陽が白い岩に反射して眩しい。登っているときは半袖、ビレイ中も上着一枚で十分な暖かさだ。簡単なラインからアップで登っていると、続々とクライマーが到着。やはり人気エリアには人が集まるようだ。終了点から下を見ると、サンゴでできた白い砂浜とサンゴ礁が沖まで広がる青い海が美しい。

ここは 10 台や 11 台もあるが、13b までのルートも複数あるので初心者から上級者まで楽しめる。連日の宴会、もといクライミングで少々お疲れ気味の我がグループは 11a をトライしたところで打ち止め。ちょっと早いがここは撤収して、地元クライマーの方から情報収集したエリアを見学しながら那覇に戻ることにする。あるエリアは硬質砂岩という岩で出来ていて、一見すると房総の岩のようにやわらかそうだが、ものすごく硬く

てクラック練習もできる。ち
ょうど去年行った台湾の龍洞
に似ている。ここも次回の再
訪を誓って先を急ぐ。
美味しいソーキそばを食べた
り、オジイ自慢のタルガヨー
という味が濃いみかんの仲間
を買ったり、念願のハブ油を
ゲットして、無事時間内に空港に到着。日付が替わる頃帰宅した。

